ロータリーに輝きを
RI会長 ゲイリーC.K.ホアン
第 2640 地区ガバナー 辻 秀和

2014-2015年
海南東ロータリークラブ
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST
RI District 2640 Japan

第 1813 回例会
平成 26 年 12 月 22 日(月)

12：30～ 海南商工会議所 4F

1．開会点鐘

2．ロータリーソング 「手に手つないで」

3．出席報告

会員総数 48 名 出席者数 28 名
出席率 58.33% 前回修正出席率 66.67%

4．会長スピーチ 会長 山東 剛一 君

みなさん今日は。今日は平成 26 年の最終例会となりました。先週もお話ししましたように、この半年を私なりに振り返ると、柳生幹事の予想もしない突然の死亡。そしてそれにともなっての中西新幹事の誕生。2 つ目に地区のゴタゴタ続き。3 つ目に難産の末の上野山会長ノミニーの誕生。細かいことを言えばまだまだたくさんありますが、みなさまのご支援ご協力のおかげで何とか前半をのりきってくることができました。本当にありがとうございます。

新年は早々に 40 周年記念式典、夫婦例会がございます。どうかご夫婦おそろいでご出席くださることをお願いして私の本年最終例会のスピーチとさせていただきます。ありがとうございます。

5．幹事報告 幹事 中西 秀文 君

○１２月ロータリーレート
１＄＝１１８円

6．会員卓話

○ロータリー財団委員会 委員長 小椋 孝一 君

教育・慈善・博愛の事業によって世界の諸国民の、より良い理解と友好関係を増進するため、1917 年に 6 人目のアーチ・フランフ RI 会長の奉仕へ絶えざる熱意によって基金として発足した非営利財団法人。1928 年ミネポリス国際大会で「ロータリー財団」と名付けられました。会長エレクトを含め理事会メンバーから提出された推薦の中から理事会が選出した 15 名の管理委員会(任期 4 年、無報酬・うち 4 人は元 RI 会長)により、地域レベル、全国レベル、国際レベルの人道的、教育的、文化交流目的にのみ運営され、その活動は、世界中から認められ、現在下記の通り、すばらしい活動を展開している。各地区には地区ロータリー財団委員会を設置しなければならない。さらに小委員会を設置するよう推奨している。また、ボランティア活動補助金と大学教員のための補助金を除いて、ロータリー関係者(職員)、および家族は受益者となれない。これはロータリーの利他の奉仕の基本的考えによるものであります。皆さんのご協力をお願いします。

※岩村記念病院

1. 人道的プログラム
・地区補助金
・ボランティア奉仕活動補助金
・マッチング・グランド
・保険、餓死追放、および人間性尊重補助金
2. 教育的プログラム
・国際親善奨学金
・研究グループ交換
・大学教員のための補助金
・ロータリー世界平和フェローシップ
・ロータリー平和および紛争解決研究ポログラム
3. ポリオ・プラス・ポログラム
・ポリオ・プラス・パートナー

○米山記念奨学会委員会 委員長 三木 正博 君

ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。

将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀とは（1）学業に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、(2) 異文化理解（3）コミュニケーション能力への意欲や能力に優れている点が含まれます。ロータリークラブを通して日本の

事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266
会長：山東 剛一 幹事：中西 秀文 ＳＡＡ：山田 裕之
http://www.kainaneast-rc.jp E-mail：info@kainaneast-rc.jp

文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。皆さんのご協力をお願いします。

７．閉会点鐘

次回例会
第 1814 回例会　平成 27 年 1 月 6 日(月)
18：00～　マリーナシティホテル
創立 40 周年記念式典・祝宴　新春夫婦例会

ニコニコ・BOX

山東　剛一　君	土曜日に地区の会長会議に出席しました。本年度最後の例会です。半年間皆さんのご協力ありがとうございました。
楠部　賢計　君	今年も無事に終われました。一年ありがとうございました。
山田　裕之　君	体調不良年内に治療。新年は健康体でがんばります。
谷脇　良樹　君	地区のゴタゴタ、年内に解決出来ませんでした。
中村　俊之　君	ロータリーの野球部の忘年会欠席しました。
角谷　太基　君	〃
田岡　郁敏　君	久しぶりに黒江の町スタンプラリーで歩きました。
小椋　孝一　君	前でロータリー財団について卓話します。

Rotary ロータリージャパン

部族間の対立がない平和な世界を目指して

ケニア北部にある小さな遊牧民コミュニティではここ数十年間、互いへの不信感、乏しい資源、家畜の窃盗といった問題が引き金となって、武力間での暴力が絶え間なく続いています。この状況を改善させようと、ロータリー奨学生のモニカ・ケニュアさんと双子の妹のジェーン・ワンジルさんが、争いをなくすために部族間の子どもたちの友情を培うプログラム、「Children Peace Initiative Kenya (CPI)」を立ち上げました。2014 年 5 月、米国・サンディエゴとケニア・ナイロビのロータリアンが協力したグローバル補助金を利用し、ケニア北部でも最も危険な地域の一つとされるサンブル郡のバラゴイで、子ども向けの平和キャンプを実施。2 年前に牛泥棒の殺害事件があり、40 人の警察が捜査を行っている地域でもあります。それぞれ 3 つの学校に通うトゥルカナ族とサンブル族の子どもたちが、教師と共に参加したこの平和キャンプ。5 日間の日程で、お互いをより良く知り、友情を培うための活動が行われました。キャンプの最後には、参加した子どもたちの全員が、ほかの部族の子どもたちと仲良くなりたいという思いを強くしました。

CPI のボランティアは、マルサビット郡近郊でも同じような行事を開催。違うコミュニティに住む子どもたちが友情を育んだ結果、互いの家族の友情が深まりました。ケニュアさんによれば、家族同士でヤギを交換したケースもあったそうです。CPI による活動が始まる前には、武力による解決法しかなかったこの地域。話し合いには、武装した交渉人を介したこともありました。その意味でこの平和キャンプは、この地域での暴力の発生を低下させる一助となっています。

「子どもたちはこれまで、紛争解決に直接的に関わったことはありませんでした」とケニュアさん。「その役目は成人男性に任されてきましたが、私たちのプログラムによって、コミュニティ間の平和に子どもたちが直接貢献できるようになり、親にもよい影響が与えられます。さらには、コミュニティ全体が平和に向かうよう手助けできるようになったのです」

ケニュアさんがロータリーと初めて関係を持ったのは 2011 年ことでした。その頃ケニュアさんは、米国のサンディエゴ大学で平和と司法の修士号を取得するための奨学金の最終候補者の一人でしたが、生活費を賄う資金源が全くありませんでした。奨学金を受けるかどうかの最終決断を迫られたちょうどその頃、以前から入会しようと考えていたローターアクトクラブの例会に参加しました。そこで出会ったのが、ある非営利組織を通じてケニアを訪れていたキャロル・カースさん。カースさんの母親、ジャニス・カースさんは、サンディエゴ地域のロータリアンで、その 18 カ月前にロータリーの職業研修プロジェクトの一環でケニアを訪れていました。ジャニスさんは当時をこう振り返ります。「キャロルがケニアに旅立ったとき、何かの役に立つかもしれないと、私の名刺を持たせたんです。私たちの地区はちょうど、ケニュアさんが希望していたサンディエゴ大の学部への留学生のために奨学金を提供していました。そこで、地区の関係者に直接説明して、最終的に彼女に奨学金を授与することが決まったのです。その時私が、ホストカウンセラーになると立候補しました」その後、留学中に実の親子のように親しくなったカースさんとケニュアさん。留学がそろそろ終わりに近づくころ、カースさんはナイロビ・ロータリークラブの知り合いに連絡し、ケニュアさんの活動への支援を要請したことがきっかけとなり、今回の平和キャンプをサポートするグローバル補助金の申請へとつながりました。今では、CPI の活動を耳にした多くのコミュニティが支援を求めるように。各平和キャンプの最後に、参加した地域のリーダーたちが、このプログラムを必要とするほかの村を紹介します。